

各高等学校長 殿
関係特別支援学校長 殿

県高等学校文化連盟放送専門部
会 長 田 嶋 吾 富
(公 印 省 略)

第71回NHK杯全国高校放送コンテスト鹿児島県予選大会の開催について（通知）

時下、ますます御清栄のことと存じます。
さて標記の大会を、下記のとおり開催いたします。
ついでには、貴校関係職員及び生徒の参加について、御配慮くださるようお願い申し上げます。

記

1 主 催

鹿児島県高等学校文化連盟放送専門部会、NHK鹿児島放送局

2 後 援

鹿児島県教育委員会（申請中）

3 日時及び会場

（1）番組部門審査（非公開）（予定）

- ① 日時：令和6年6月3日（月）9：00から
- ② 場所：NHK鹿児島放送局

（2）大会及びアナウンス・朗読・校内放送研究部門審査

- ① 日時：令和6年6月11日（火）～6月12日（水）
- ② 場所：カクイックス交流センター（かごしま県民交流センター）（Tel.099-221-6600）
受付及び開・閉会式は県民ホールで行います。開場は8時30分の予定です。
- ③2日目に決勝を行いますので、全員、両日ともご参加ください。（決勝進出者発表と決勝）
（※ 前は感染症予防を配慮し、行いませんでした。）

以下は、校内放送研究No.191（第71回NHK杯全国高校放送コンテスト要項 通称「赤本」）に準じた記載です。ダウンロードはこちら→ https://www.nhk.or.jp/event/n-con/assets/pdf/71_guide.pdf

4 目 的

現代に生きる高校生の豊かな人間性の育成と、未来への展望をもつ人間としての成長をめざし、校内放送活動をメディアリテラシーの実践として位置づけ、情報発信としての放送活動の発展をはかる。

5 ねらい

- （1）美しく豊かな日本語を大切にできる心情を育て、あわせて話す力、表現する力を高める。
- （2）情報発信者としての自覚を高め、あわせて創造性を育てる。
- （3）社会との関わりに目を向け、放送の果たす役割を学ぶ。
- （4）人間尊重の心を培い、国際理解を深める放送の働きを確かめる。
- （5）学園生活の中にうらおいを育て、心のふれあいの場をつくる。

6 研究主題（統一テーマ）「私たち高校生と放送」

高校生の連帯、先生方とのきずな、地域や社会への結びつきを、日常生活の中で考え、主体的に放送活動に展開すること。

7 参加資格・規定について

(1) 令和6年度鹿児島県高等学校文化連盟加盟校の生徒およびその作品。

(2) 各部門への参加規定については、校内放送研究No.191（第71回NHK杯全国高校放送コンテスト要項・通称「赤本」）に準じる。要項（各部門のページとP5, P17～P23）を熟読の上、適切に処理すること（従来のものとは変更があるため、必ず目を通してください）。また、BGM等については著作権フリーのものを使用することが望ましい。番組制作で、正式に契約したインターネット上の音楽・効果音素材は使用可能です。また、著作権者の指示によりダウンロードした素材も使用可能とします。詳細は、赤本p17「番組制作について」、および「番組部門制作関連資料」で確認してください。

(3) 原稿・作品・番組進行表の提出について

提出については校内放送研究 No.191（第71回NHK杯全国高校放送コンテスト要項・通称「赤本」）に従うこと。**各部門で使用する指定の用紙は要項の表紙裏のURL (https://hosokyoiku.jp/ncon_h/)（放送教育ネットワークWebサイト内）からすべてダウンロードして使用すること。**

(4) 各部門について

A. アナウンス部門（赤本 P6 参照）

- ① 参加人数は各校4名以内とする。
- ② アナウンスする内容は自校の校内放送に使用するものとし、原稿は生徒が自作したものに限定。
- ③ アナウンスのはじめに、番号と氏名を読むこととし（学校名は読まない）、時間はそれらを含め、**1分10秒以上1分30秒以内**とする。字数は制限しない。
- ④ 事前に提出するアナウンス原稿は、様式1に従い、指定の原稿用紙を使用し、縦書き、**袋綴じし、右側2箇所をホチキスで止め、仕上がりA5判で4部**（コピー可）作成・提出する。

B. 朗読部門（赤本 P7 参照）

- ① 参加人数は各校4名以内とする。
- ② 次の指定作品の中から1編を選び、自分の表現したい部分を抽出して朗読する。作品の改変は認めない。**※抽出は文頭から開始し、文末で終了とすること。一文途中の開始や終了は改変とみなす。本文中の（ ）内も読むこと。（読み仮名・訳者注を除く）**

朗読指定作品

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| 1) 「泥流地帯」 | 三浦 綾子 著（新潮文庫） |
| 2) 「小さな幸せ46こ」 | よしもと ばなな 著（中公文庫） |
| 3) 「レキシントンの幽霊」 | 村上 春樹 著（文春文庫） |
| 4) 「チップス先生、さようなら」 | ジェイムズ・ヒルトン 著、白石 朗 訳（新潮文庫） |
| 5) 「大鏡」 | |

※注意：電子書籍不可。1) 平成21年56刷改版以降のものに限る。2), 3) は、収録作品のいずれを選んでも良い。

4) は、他の出版社、翻訳者のものは不可。5) は現代語訳不可、出版社は問わない。

2) の作者名は「よしもとばなな」で書く。

- ③ 朗読のはじめに、番号、氏名、作者名（訳者名は読まない）、作品名を読むこととし（学校名は読まない）、時間はそれらを含め**1分30秒以上2分以内**とする。**※ 指定作品3)は選定した収録作品の各タイトルを作品名として読むこと。5)については作品名のみで良い。**

- ④ 事前に提出する朗読原稿は、ダウンロードした様式1に従い、指定の原稿用紙を使用し、縦書き、袋綴じして、右側2箇所をホチキスで止め、仕上がりA5判で4部（コピー可）作成・提出する。指定作品1）～4）については原稿表紙に抽出部分の開始ページを記入する。

C. ラジオドキュメント部門（赤本 P8～9）参照

- ① 作品数の制限はありません。
- ② 高校生活や地域社会とのかかわりの中に広く素材を求め、ラジオの特性を生かして制作された、高校生としての視点を大切にしたい、独創的な作品であること。
- ③ 様式規定に従った**番組進行表I部**を作成・提出する。また番組進行表はPDF形式にしたものも作品と一緒に外部記憶媒体（※1 USBメモリやディスクなど）に入れて提出する。
- ④ 作品は、6分30秒以上7分以内でまとめる。作品の最後には「制作は〇〇高等学校（放送部・放送委員会等）でした。」というクレジットコールを入れる。クレジットコールには、クレジットコール以外の音声を入れない。また、作品の前後に2秒程度のブランク（無音）を入れること。
- ⑤ 計時は、最初の音から、クレジットコールの終わり（……でした）までとする。
- ⑥ 作品データは、音声ファイルMP3形式で、外部記憶媒体（※1）に入れて提出すること。

D. テレビドキュメント部門（赤本 P 10～11 参照）

- ① 作品数の制限はありません。
- ② 高校生活や地域社会とのかかわりの中に広く素材を求め、テレビの特性を生かして制作された、高校生としての視点を大切にしたい、独創的な作品であること。
- ③ 様式規定に従った**番組進行表I部**を作成・提出する。また番組進行表はPDF形式にしたものも作品と一緒に外部記憶媒体（※1）に入れて提出する。
- ④ 作品は、7分30秒以上8分以内でまとめる。作品の最後には、制作した学校のクレジットタイトルを入れる。またコンテストのWebサイトからダウンロードした様式3のテストパターンを作品の前後に5秒ずつ入れること。
- ⑤ 計時は、初めのテストパターンの終了時から、終わりのテストパターンの始まりまでとする。テストパターンは改変してはいけない。
- ⑥ テレビ放送番組などの再録を主体としたものは認めない。
- ⑦ 作品は次の形式で、外部記憶媒体（※1）に入れて提出すること。
MP4形式（NTSC規格、アスペクト比16:9、H.264コーデック、HD画質以下【解像度1080 [1920×1080] 以下】SD画質も可。

E. 創作ラジオドラマ部門（赤本P 12～13 参照）

- ① 作品数は各校1作品とする。
- ② 脚本は参加資格を有する自校生徒のオリジナル作品であること。文芸作品などからの脚色や改作は認めない。
- ③ 様式規定に従った**番組進行表1部**を作成・提出する。また番組進行表はPDF形式にしたものも作品と一緒に外部記憶媒体（※1）に入れて提出する。
- ④ 作品は、8分以内でまとめる。作品の最後には「制作は〇〇高等学校（放送部・放送委員会等）でした。」というクレジットコールを入れる。クレジットコールには、クレジットコール以外の音声を入れない。また、作品の前後に2秒程度のブランク（無音）を入れること。
- ⑤ 計時は、最初の音から、クレジットコールの終わり（……でした）までとする。
- ⑥ 出演者は自校生徒（中高一貫校の場合は高校生のみ）に限る。
- ⑦ 作品データは、音声ファイルMP3形式で、外部記憶媒体（※1）に入れて提出すること。

F. 創作テレビドラマ部門（赤本 P14～15 参照）

- ① 作品数の制限はありません。
- ② 脚本は参加資格を有する自校生徒のオリジナル作品であること。**文芸作品などからの脚色や改作は認めない。**
- ③ 様式規定に従った**番組進行表I部**を作成・提出する。また番組進行表はPDF形式にしたものも**作品と一緒に外部記憶媒体（※1）に入れて提出する。**
- ④ 作品は、**8分以内**でまとめる。作品の最後には、制作した学校名の**入ったクレジット**を入れる。またコンテストのWebサイトからダウンロードした**様式3のテストパターン**を作品の前後に**5秒ずつ**入れること。テストパターンは**改変してはいけない。**
- ⑤ 計時は、**初めのテストパターンの終了時から、終わりのテストパターンの始まりまで**とする。
- ⑥ **出演者は、自校生徒（中高一貫校の場合は高校生のみ）に限る。**
- ⑦ **作品は次の形式で、外部記憶媒体（※1）に入れて提出すること。**
MP4形式（NTSC規格、アスペクト比16:9、H.264コーデック、HD画質以下【解像度1080 [1920×1080] 以下】SD画質も可。

G. 校内放送研究部門（赤本 P16 参照）

1. 目的

日常の校内放送活動の中から、問題解決の努力または技術的な創意工夫などを発表する機会を設け、各学校が持つ諸問題を共有し、共に解決することを目的とする。

2. 発表について

- ① 発表内容は、校内放送に関するものに限る（校内放送の技術、アナウンス・朗読の技術、番組の制作や編集の技術、部活動・委員会活動の運営方法など）。コンテストにエントリーしている関連の内容、または類似の内容であっては**いけない**。今回のコンテスト参加作品の上映は、たとえ一部であっても**一切認めない**。なお、メーカー名、商品の写り込みを避け、特定の製品のPRも避けること。
- ② 本発表会は発表技術を競うものではなく、問題解決の結論を重視する。
- ③ 発表は、PowerPointを使用したスクリーン1面によるプレゼンテーションとする。誤作動などを防ぐために**スライド画面の切り替え効果とアニメーションの使用は禁止する**。発表時間は、機材調整を含め8分以内とし、発表者は機器操作を含めて3人までとする。録音・録画を主体とする発表は認めない。
- ④ 会場には、主催者が以下の発表機器を用意する。
 - a. ノートパソコン1台（Windows11） **PowerPoint2019**
 - b. マイク（2本） c. 電気スタンド d. レーザーポインター

3. 発表の進行について（類型の設定があります。）

- ① 発表の内容に合わせて以下の3つの類型を設定する。Ⅰ類＝アナウンスや朗読に関する研究。Ⅱ類＝番組制作に関する研究。Ⅲ類＝その他（学校行事の運営や校内放送など）。**発表校はエントリーの際に自校の発表がどの類型に該当するかを申告する。**
- ② 発表会場では研究した大きな作品を組み立てたり設置したり展示したりすることは、時間とスペースがないのでできない。発表中に、印刷物の配付や、両手で掲げられることのできる大きさのものの提示をしてもかまわないが、発表中に大きな作品を組み立てたり設置したりすることは認めない。ただし、**事前に（エントリー時に）申請して許可された発表校に限り、会場後方に制作物等を展示することができるスペースを与える。**
- ③ 持ち込んだ機材を発表会場設備に接続してはならない。
- ④ 上演中は会場を消灯する。

4. 研究要旨・番組進行表・著作権処理の提出

- ① 出場校は、研究要旨（研究の目的と方法論と結論を、わかりやすく200字程度でまとめたもの）を提出する。展示の希望がある場合にはあわせて申請する。
- ② 発表は公開を前提としているので、**番組進行表1部**を作成・提出する。また番組進行表は**PDF形式にしたものも作品と一緒に外部記憶媒体（※1）に入れて提出する**。著作権処理が必要なもの（BGM、写真など）については、番組部門と同様の処理を行う。（様式2-1（開発用）、様式2-2（開発用）、様式2-3、必要に応じて様式2-4、2-5を提出）。

5. 発表用PowerPointのデータの提出要旨・番組進行表・著作

- ① 出場校は、発表で使用するPowerPointのデータを**外部記憶媒体（※1）に入れて提出すること**。
- ② PowerPointのデータの容量は1校につき**200MB以内**とする。PowerPointのデータに貼り付ける音声や動画には権利手続きについて十分注意すること。
- ③ 発表は提出したPowerPointデータを使って行うこと。

※（C～Gについて）制作に当たっての注意事項（赤本P17も熟読すること）

- (1) 参加規定にある通り「放送コンテンツ」ですので、放送（公開）することを前提としています。参加作品をNHKの地域放送や特集番組、Webサイトなどで公開したり、イベントや印刷物等に使用したりすることがあります。赤本 P17の「権利処理について」を参照し、手続きを行ってください。手続きが行われていない場合、審査・公開できないことがあります。制作にあたっては、利用のための許諾を文書で得て、必ず番組進行表に添付すること。許諾が必要なものに対して、添付文書がない場合は、許諾を得ていないと判断し規定違反になります。
- (2) **外部記憶媒体（※1）での提出**：作品データ及び番組進行表のPDF形式は**USBメモリやディスク**などに保存して提出すること。
- (3) 番組部門は一部インターネット上の素材が使用可（正式に契約したもの）。商品で使用許可があるものは確認できるもの（買った時の領収書や手続きに関する規約等）を添付すること。ダウンロード素材は音楽や効果音に限る。キャラクター（画像）に関しては認めない。
- (4) **ファイル名の付け方**：作品データ及び番組進行表のPDF形式のファイル名は、**鹿児島県高文連放送専門部事務局ホームページ（<http://kagohou.main.jp/>）**に示す方法に従うこと。
(例) 松陽高校 ラジオドキュメント部門 作品1 番組タイトルの場合のファイル名

005_dam_1_番組タイトル

(5) 提出期限

5月29日（水）16：45必着。（作業日の余裕がないため、期日厳守でお願いします。）

(6) 提出に際しての注意事項（よくご確認ください）

- ① 参加申込書は、**鹿児島県高文連放送専門部事務局ホームページ（<http://kagohou.main.jp/>）**からダウンロードし、必要事項を入力後、下記メールにて事務局（アドレスは申込先へ）に送信してください。またプリントアウトした参加申込書に公印を押印後、申込用紙は別の小封筒に入れ、原稿、作品、番組進行表等と共に郵送してください。（別封筒に分けるのは事故防止のためです）

e-mail kago.housou.712@gmail.com

② 郵送先（問い合わせ先）

〒899-2702

鹿児島市福山町573番地 鹿児島県立松陽高等学校 放送部 鯨坂 嘉彦 宛

Tel. 099-278-3986 Fax. 099-278-1838

【※ 直接持ち込まれる方は、事務室を経由の上、職員室までお持ち込みください。】

(7) 参加登録料

参加登録料は次の通りです。（参加生徒1名、または参加作品1点につき）

アナウンス部門・朗読部門 3,000円 ・ 作品部門 3,500円 ・ 研究発表部門 2,500円

指定の金額を、次の口座に5月28日（火）までに振込んでください。

カクイックス交流センター（かごしま県民交流センター）の会場利用規定の関係で、期日までに入金のない場合は大会に参加できません。また、申し込み後に参加数の変更が生じても払い戻しは致しません。

【鹿児島銀行】

鹿児島銀行中央支店 普通口座3009119

鹿児島県高文連放送専門部 会計 内倉 昭文（ウチクラ アキフミ）

※ 振込者名については、通帳で確認しやすいように、下記の例のようにお願いします。

（例）ショウヨウ サイゴウ（カゴシマケンリツ、コウコウ などは、省く）

8 その他

- (1) 『7 参加資格・規定・提出・各部門について』の、A・Bの部門については、**全国大会への出場は、1校3名を上限**とします。また、C～Fの部門については、C・Dの作品は何点でも応募できますが、**全国大会への出場は、1部門に1校1作品**となります。
- (2) 顧問会議を8:50～9:50まで、4階中研修室 第3にて行いますので、引率される顧問の先生方は必ず出席をお願いします。
- (3) 昼食は各自準備してください。
- (4) カクイックス交流センター（かごしま県民交流センター）の駐車場を利用される場合には2時間まで無料で、それ以降は有料になります。センターの認証処理が必要です。**（※駐車料金はすべて自己負担となりますので予め御了承ください。）**
- (5) 一般の人もセンターを多数利用しているので、利用マナーの厳守を引率者で御指導ください。
- (6) 閉会式終了後、全国大会へエントリーされた生徒（番組部門においては学校）及び顧問の打合会を開きます。
- (7) 今後、今大会に関する連絡事項については、鹿児島県高文連放送専門部事務局ホームページにて、連絡事項が発生し次第、随時、連絡いたしますので、担当の先生方はこちらのページの確認もお願いいたします。
- (8) 参加校の引率の先生方は、全員、コンテストの審査・運営に携わっていただきます。御理解と御協力をお願いいたします。